

# 第 1 学 年

## 1 研究主題 「表現力・コミュニケーション力を高める指導方法の工夫」

— 算数的活動を通して —

## 2 育てたい力

### ◆表現力

○自分の思いや考えを話すことができる。

### ◆コミュニケーション力

○友達の話聞いて、自分の思いや考えを伝えることができる。

## 3 研究の視点と手だて

### [視点 1] 算数的活動の工夫

○問題解決による発表，話し合い

自分の考えた方法について，具体物や半具体物の操作や言葉，数，式，図などで表現させる。発表の内容や説明のしかたで良い点を中心に見つけだせ，発表させる。

○学習の振り返り（感想）

発表や振り返りマーク等活用して，できるようになった喜びやがんばったことを中心に取り上げ，次時の学習の意欲付けにつなげていく。

### [視点 2] 学習形態の工夫

○ペア学習やグループ学習の設定

自分の考え（自分で考えた問題）を隣の席の人に伝えたり，近くの人に伝えたりする場面を設定し，児童同士の交流を図る。

### [視点 3] 学習環境の整備

○安心して話せる環境づくり

児童の発言を受容し，教師が補足して他の児童に返し，発言への安心感を持たせる。

○話す・聞くポイントの確立

発表の仕方，挙手，返事，作業をやめて，最後まで聞く。

# 第1学年 成果と課題

## 1 研究の成果

### 〔視点1〕算数的活動の工夫

#### ＜問題解決による発表 話し合い＞

- 個人用ホワイトボードを活用することで、自分の考えをブロック操作や言葉、数字、式などで表現しやすくなった。
  - ①いろいろな操作活動や考えが目に見える形で提示できた。
  - ②児童の考え方が整理しやすくなり、互いの考え方の違いや同じところに気づき、話し合いにより教師が書きこみもすることができた。
- たし算（合併・増加）、ひき算（求残・求差）の意味を理解させるため、ブロック操作で表現する指導を積み重ねてきた。そのことで、絵から立式したり、式から文章問題をつくったりする活動においても、式の意味をよく理解し表現できた。

#### ＜学習の振り返り（感想）＞

- 振り返りを『ニコちゃんマーク』にしたことで、客観的な自己評価につながった。感想を文章化させていったことで、分かったことや分からなかったことが明確になり、次時の指導に生かすことができた。

### 〔視点2〕学習形態の工夫

#### ＜ペア学習やグループ学習の設定＞

- 算数以外の教科でもペア学習やグループ学習を実践することで、算数にスムーズに関わり合うことができた。ペア学習やグループを3人にすることで、発表したり、聞いたりしやすい場面を設定することができた。また、グループのメンバー構成を配慮することで、教え合ったり、認めたり、アドバイスしたりする児童同士の関わりが深くなった。

### 〔視点3〕学習環境の整備

#### ＜安心して話せる環境づくり＞

- 少人数のよさを生かし、安心して授業に取り組めるようになった。児童の発言を受容し、教師が補足して他の児童に返すことで安心感がもてた。また、解答が1つのものでも、いろいろな子が次々と発表することで、あの人と自分も同じという気持ちを持って、安心して発表することができた。これらの実践を通して、4月当初と比べて、授業中の発言が増えた。

#### ＜話す・聞くポイントの確立＞

- 「理由は何ですか？」－「理由は〇〇〇です。」といった『結論－理由－結論』を使って、数学的な考え方を意欲的に発表することができた。『話型のパターン』があることで、安心感がもてた。
- 挙手や返事のしかた、発言や意思表示、話の聞き方（作業をやめて最後まで話を聞く）や姿勢などの学習訓練については、4月当初から、児童の実体に応じて繰り返し指導してきた。その結果、多くの児童が、きちんとした学級のルールに基づいて積極的に自分の意見を発表できるようになった。また、話の聞き方については、一部の児童に声かけが必要などころはあるが、全体としてはだいぶ定着してきた。

## 2 今後の課題

- ▲算数的な活動において個に応じた支援の仕方が今年度の課題であった。学年で情報交換を行い、支援を要する子に有効な手だてを今後も探っていく必要がある。
- ▲本年度、細やかな指導ができたのも少人数指導によるものであり、今後も少人数指導の必要性を強く感じた。